



兵庫のアカトンボ

八田康弘



青い赤とんぼ

ナニワトンボ

表紙 ナツアカネ

兵庫のアカトンボ

兵庫はため池も多く、いろいろな水辺の環境があるのでたくさんのトンボが生息しています。その中でもアカトンボの種類も最も多い県の一つとなっています。

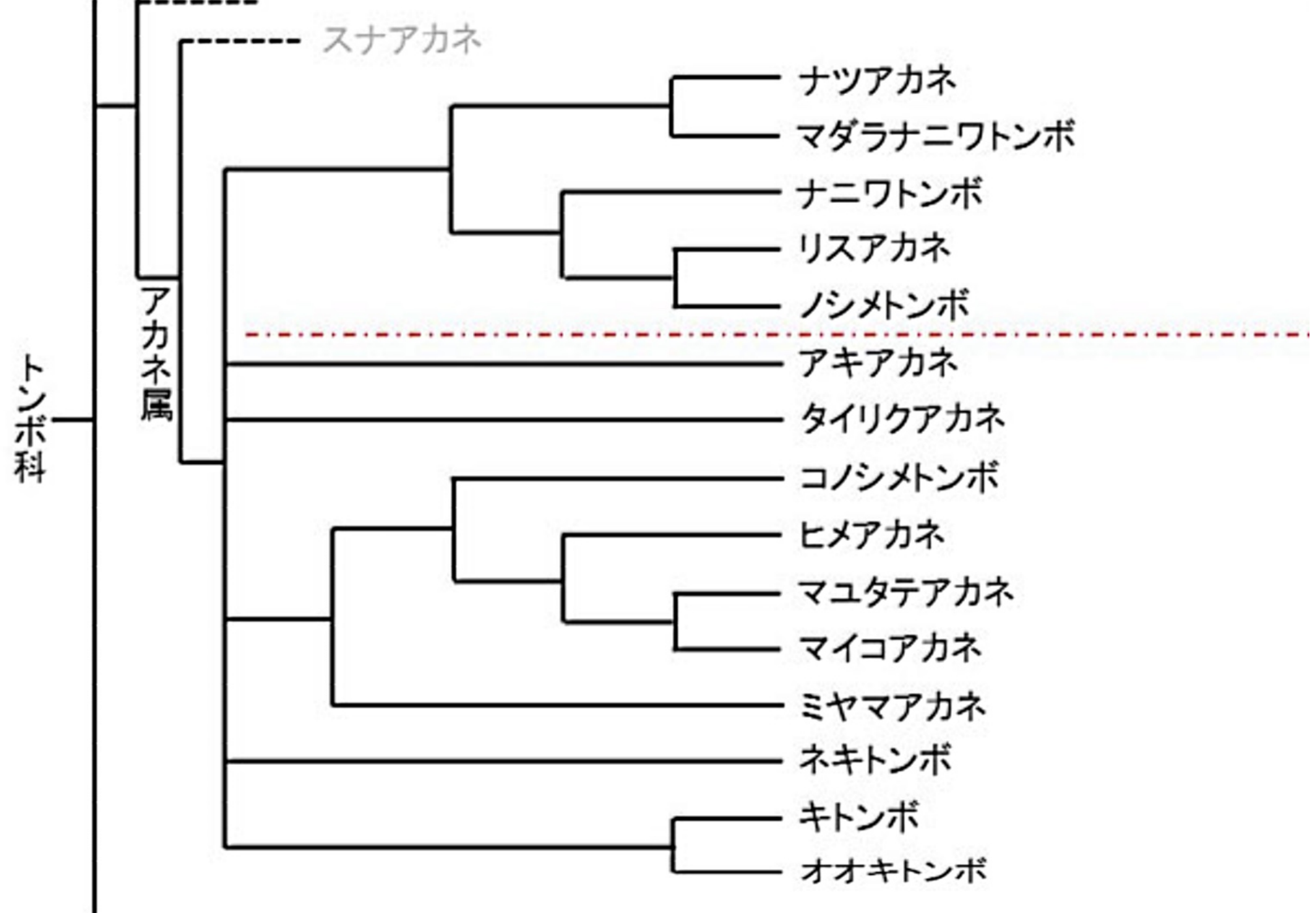
アカトンボはよく似たグループにつけられた名前で正式な定義はありません。一般的にはアカネ属のトンボをアカトンボと言っています。日本ではこのアカネ属に属するトンボは21種類記録されています。

そのうち北の方にしか見られないものが3種類、大陸から渡ってくるが定着していないものが3種で残り15種類が兵庫県で見られます。この15種のなかには既に兵庫県では絶滅したのではと言われているものが1種います。そのため現在兵庫県で見ることができるものは14種と言えるでしょう。残りの1種に会えることを願って写真をまとめて見ました。大陸から飛翔するものは3種記録されています。そのうち兵庫県で私が見た2種をここで紹介しています。

アカネ属に属するものはすべて赤いのかと言えば中には赤くないものもあります。逆にアカネ属以外のトンボでも赤いものがあります。今回アカネ属以外の赤いトンボは4種紹介しています。

兵庫のアカトンボ

15種類のアカネ属に属するトンボのDNA解析に基づいた分類を示したわかりやすい図があったのでのせておきます。トンボ図鑑はこの分析にそった順番でトンボが掲載されています。ここでもこの図に従って編集しました。先に紹介した絶滅の可能性があるトンボは赤くないトンボのマダラナニワトンボです。絶滅危惧Ⅰ類に指定され、2016年を最後に生息が確認されていません。私も見る事ができていなかったのでここには写真を掲載できていません。説明文のみ最後に掲載しておきました。また大陸飛翔のスナアカネもマダラナニワトンボの次に掲載しました。



兵庫県に棲息するアカネ属のDNA解析に基づく系統分類（神戸のトンボより）

ナツアカネ 1

稲刈りが終わったあと、神戸市内の田んぼの稲株の合間でナツアカネの連結飛翔をよく見かけます。

神戸市内では秋の時期はアキアカネよりナツアカネの方を多く見かけます。アキアカネより赤い色があざやかです。顔まで見事に真っ赤になります。

(夏茜蜻蛉)

ナツアカネ♂





ナツアカネ♂



ナツアカネ♂



ナツアカネ♀



ナツアカネペア



ナツアカネ交尾

ナニワトンボ 2

アカネ属ですが赤くないトンボです。瀬戸内海周辺地域に限られた日本固有種です。大阪で初めて発見されたことによる命名のようです。

シオカラトンボを小さくしたような姿をしています。リスアカネが近くに必ずいます。同じような生態なのでしょう。体の色合いは全く違いますが近い種類のようです。

産卵は岸辺の土にばらまかれます。

(浪速蜻蛉)

ナニワトンボ♂





ナニワトンボ♂



ナニワトンボ♂



ナニワトンボ♀



ナニワトンボペア



ナニワトンボペア



ナニワトンボペア

リスアカネ 3

翅の先が黒いのが特徴です。
オスが翅の先が黒いアカネ属は
3種類です。リスというかわい
い名前がついているのでかわい
さからつけられたと思いがちで
すが、トンボ学者の名前からつ
いた名前です。

昆虫の名前はよくこのようなこ
とがあります。よくババなんと
かという名前がついている虫が
いますがこれも人名由来の場合
が多いです。

このトンボは日陰が好みの方
で薄暗い池端の木陰にいます。

(Ris蜻蛉)

リスアカネ♂





リスアカネ♂



リスアカネ♀



リスアカネペア



リスアカネペア



リスアカネ交尾

ノシメトンボ 4

翅の先が黒いアカネ属3種の中で一番大柄のトンボです。アカトンボと言っても和風渋みのあるトンボです。名前のノシメも胸の模様が織物の文様に似ているところからついたようです。連結飛翔も大柄からか、ゆったり波打った飛翔です。

(熨斗目蜻蛉)

ノシメトンボ♂





ノシメトンボ♂



ノシメトンボ♀



ノシメトンボペア

アキアカネ 5

暑がりなのか暑い夏には山に避暑に出かけ秋に平地田んぼに戻ってきます。

童謡アカトンボのモデルはこのアキアカネだといわれていますが、ウスバキトンボという説もあります。

まさに兵庫ゆかりのトンボですが減少傾向のようです。

神戸市内の田んぼもナツアカネの方をよく見かけます。

(秋茜蜻蛉)

アキアカネ♂





アキアカネ♀



アキアカネペア



アキアカネ交尾

タイリクアカネ 6

日本固有種のアキアカネに似ていますが名前が示すようにユーラシア大陸に広く分布しています。翅脈がうっすら赤くなっているのと胸部の黒が違います。名前が似たタイリクアキアカネというトンボもありますが、こちらは大陸からの飛来種と考えられています。

(大陸茜蜻蛉)

タイリクアカネ♂





タイリクアカネ♂



タイリクアカネ♂



タイリクアカネ♀



タイリクアカネ未成熟♂



タイリクアカネペア



タイリクアカネ交尾

コノシメトンボ 7

翅の先の黒さは濃いめでナツアカネのようにオスは体全体顔まで真っ赤です。配色的には綺麗なアカトンボです。

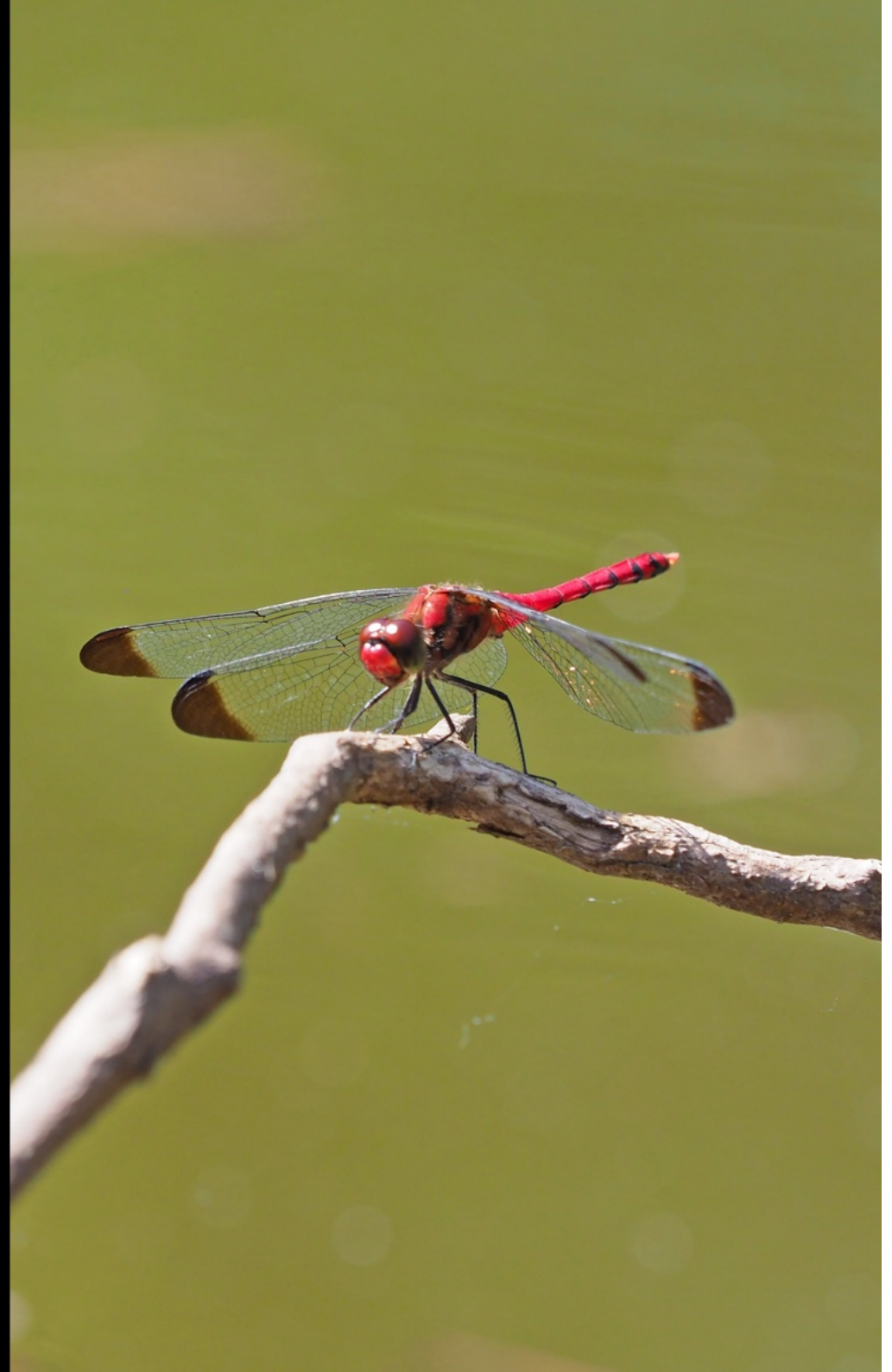
オープンな明るく開けた環境に生息しています。

ノシメトンボとはオスの色合いがかなり違いますが翅の先が黒いということでコノシメとついたようです。

同じ先が黒いリスアカネより大きくノシメトンボより小さくて中間の大きさとなります。

(小熨斗目蜻蛉)

コノシメトンボ♂





コノシメトンボ♂



コノシメトンボ♂



コノシメトンボペア

ヒメアカネ 8

アカトンボの中で一番小さいということから名前にヒメとついています。

顔がしろっぽくでかわいいトンボです。

メスも明るい黄色でペアになっていると赤と黄色で綺麗な配色となります。

(姫茜蜻蛉)

ヒメアカネ♂





ヒメアカネ♀



ヒメアカネ♂



ヒメアカネ♀



ヒメアカネ♂未成熟



ヒメアカネ♂



ヒメアカネ交尾

マユタテアカネ 9

顔に眉があるところからマユタテという名前がついてます。

オスは透明な翅ですが、メスは透明なタイプと翅先が黒いタイプとあります。

池の周りの林の木の先によく止まっており、結構どこへ行っても見かけるトンボです。

(眉立茜蜻蛉)

マユタテアカネ♂





マユタテアカネ♂



マユタテアカネ♂



マユタテアカネ♂未成熟



マユタテアカネ♀



上 マユタテアカネペア

下 マユタテアカネ交尾

マイコアカネ 10

顔が青いところから舞妓さんの化粧にたとえてマイコと名前がついたようです。

湿地のような小さな池の周辺にヨシなどの草が茂った中に止まっています。

顔のエメラルドグリーンは本当にきれいです。

メスの顔にはマユタテアカネのように眉班があります。

結構環境に敏感なようなので局地的な分布になっています。

(舞妓茜蜻蛉)

マイコアカネ♂







マイコアカネ♂



マイコアカネ♀

マイコアカネ♂





マイコアカネ交尾

ミヤマアカネ 11

日本で一番美しいアカトンボと
言われています。

翅の黒い班が先ではなく、少し
先から離れた場所にあるので他
の先が黒いアカトンボと区別し
やすいです。

アカトンボの中で唯一流水を生
息環境としています。

開けた日当りのよい流水域にい
ます。

(深山茜蜻蛉)

ミヤマアカネ♂



ミヤマアカネ♀



ミヤマアカネペア



ネキトンボ 12

山の中の木立に囲まれたような池に生息しています。

翅の基部が黄色いということからネキと名前がついています。

黄色というより橙色です。

(根黄蜻蛉)

ネキトンボ♂





ネキトンボペア



ネキトンボペア



ネキトンボペア



ネキトンボペア

ネキトンボペア



キトンボ 13

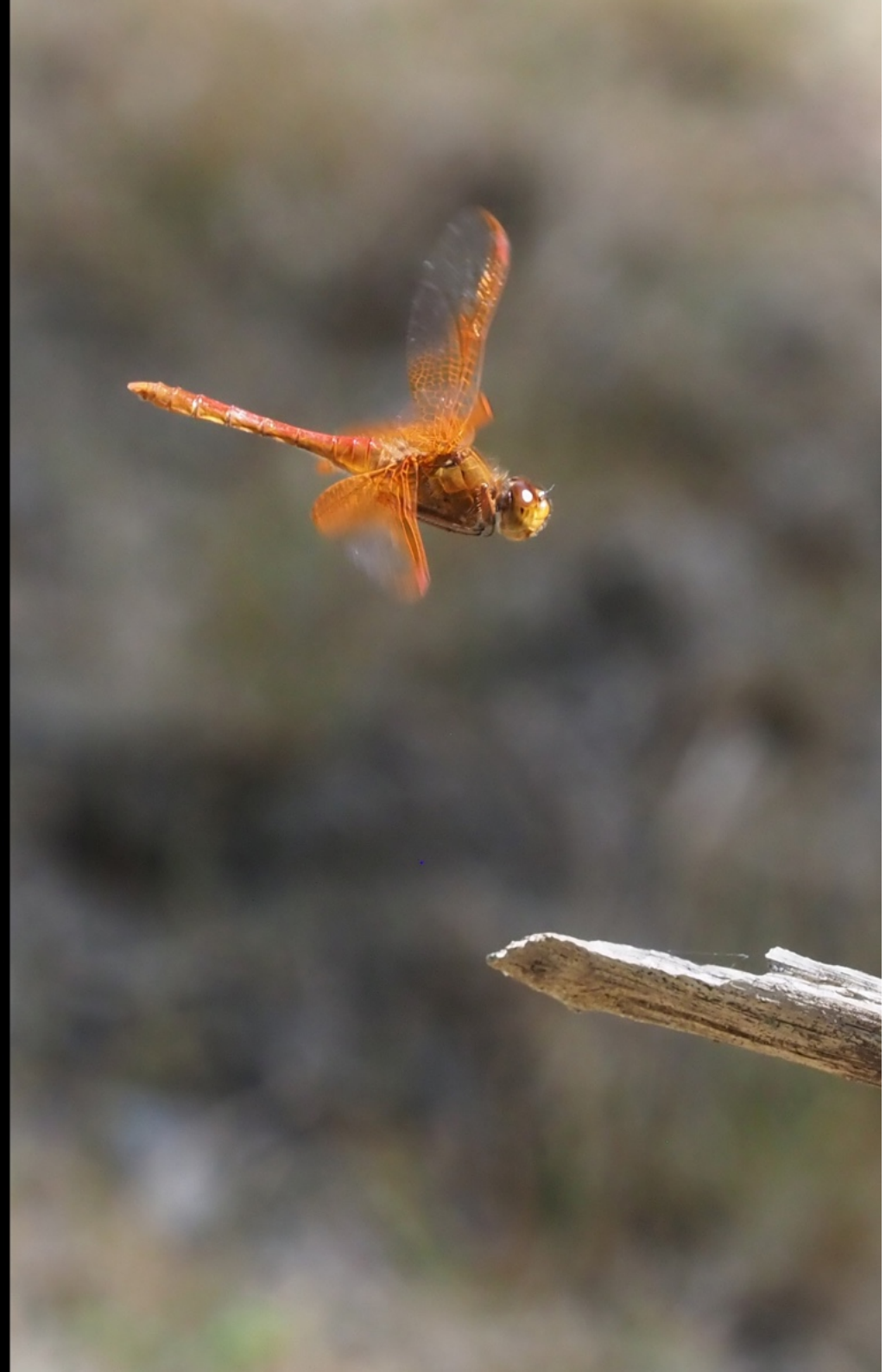
このトンボも黄色というより橙色に近いです。

このトンボも山間の池にいます。

寒さに強いようなので、遅くまで活動しています。成虫のまま越冬することもあるようです。ネキトンボとキトンボがセットで見かけます。

(黄蜻蛉)

キトンボ♂





キトンボ♂



キトンボ♂



キトンボ♀



キトンボ交尾

オオキトンボ 14

これこそ黄色いトンボと言えるでしょう。体全体黄色いです。面積の広い開けた平地の池に生息しています。

激減しているという情報がありますが、播磨の方の大きな池でまだ多くの個体を見かけました。

シオカラトンボと縄張り争いをしているのをよく見かけます。

(大黃蜻蛉)

オオキトンボ♂





オオキトンボ♂



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア



オオキトンボペア

兵庫県絶滅危惧

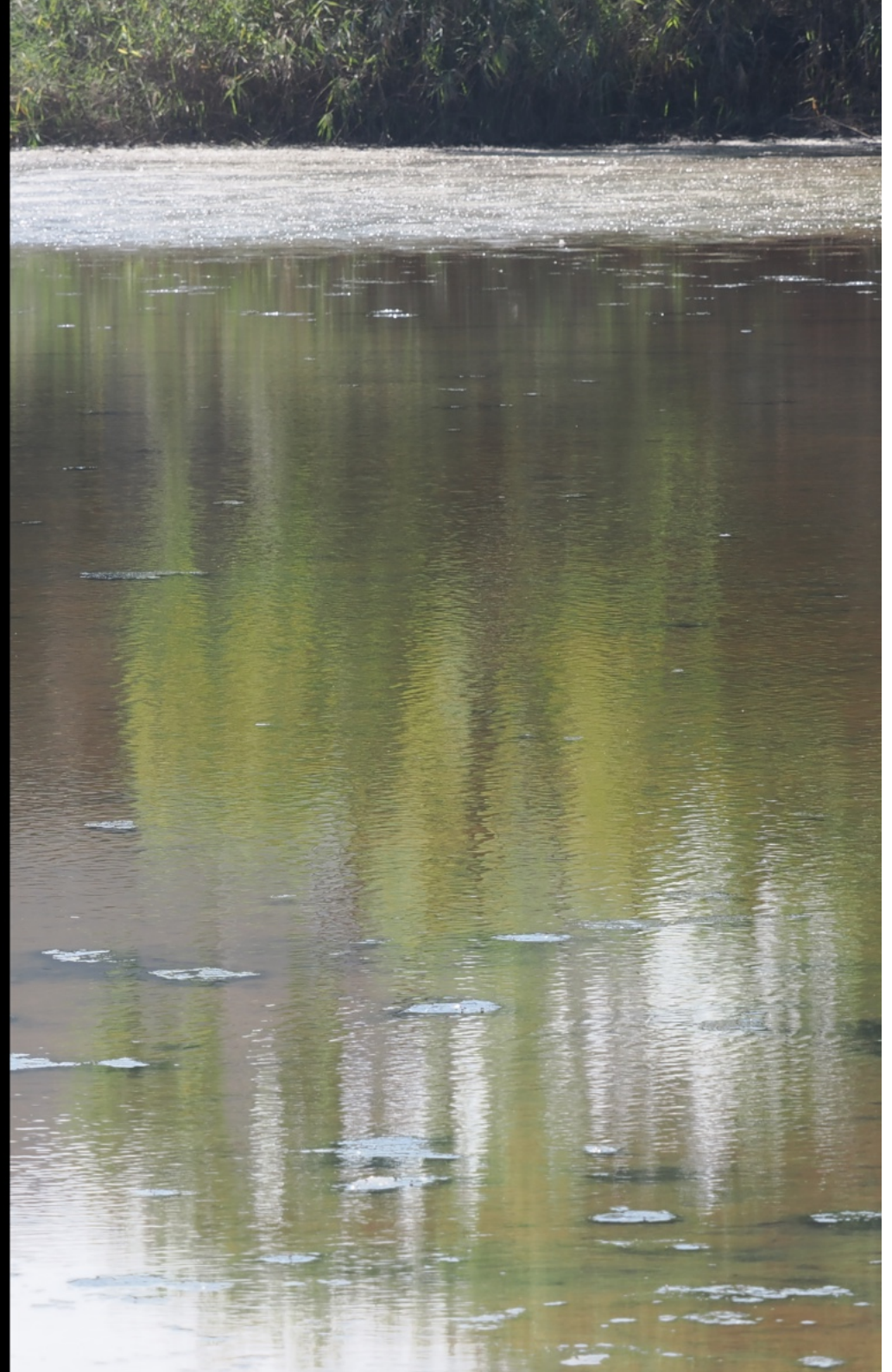
兵庫で出会えていないアカトンボ

マダラナニワトンボ15

赤くならないトンボです。
全国的に減少傾向が著しく兵庫県でも2016年を最後に見られていません。主に東播磨を中心とした生息でした。
湿地状の池が生息環境のようなので、どこかで生き残ってくれていることを願うばかりです。

(斑浪速蜻蛉)

北播磨の池



大陸より飛翔

兵庫県で確認されているのはタイリクアキアカネ、オナガアカネ、スナアカネの3種で以前日本海側で確認されたのがタイリクアキアカネ、その後オナガアカネが確認されるようになったようです。最近は太平洋側でスナアカネが確認されるようになっていきます。

オナガアカネは神戸市内の記録がありますが、最近はスナアカネが神戸市内の人工島で必ず見られるようになっていきます。

スナアカネ

海外からの飛翔と考えられています。2000年代以降増加傾向が認められ全国的にも観察されています。海岸近くの水辺に多いとのことで人工島に確認しにいくと出会えました。複眼下部の青色や胸の銀白色帯が目立つので識別しやすいです。

(砂茜蜻蛉)

スナアカネ♂





スナアカネ♂



スナアカネペア



スナアカネ産卵



スナアカネ産卵

オナガアカネ

季節風に乗って大陸から飛来していると考えられており2000年頃から飛来数が増えてきています。

メスの産卵弁が長いことによる命名です。顔が白いことも含めてヒメアカネによく似ているので識別が難しいです。





アカトンボ顔

上左ナツアカネ

上右マイコアカネ

ヒメアカネ

マユタテアカネ

ナニワトンボ

下左オオキトンボ

ノシメトンボ

リスアカネ

スナアカネ

下右アキアカネ

アカネ属でない赤いトンボたち

ハッチョウトンボ

若かりし頃にハッチョウトンボに初めてであった感動、その後同じ感動を覚えたことはありません。

こんな小さなトンボがいるとは、イトトンボとは違い、アカトンボと同じ形をしながらこんなに小さなトンボが飛びまわっているとは、そして縄張りを張って体をぶつけあっています。メスをめぐっての繁殖行動。10年費やして卵からその生態を写真におさめまとめたのが昔の思い出です。

(八丁蜻蛉)

ハッチョウトンボ♂





ハッチョウトンボ交尾



上 ハッチョウトンボ♂ 下 ハッチョウトンボ♀

ショウジョウトンボ

アカトンボとはまた違った赤さです。

日本の童謡「アカトンボ」とはむすびつかない赤さです。

ショウジョウという名前は中国の伝説上の生き物、赤い毛を持った妖怪からついた名前のようにです。いかにも妖怪色といった赤さです。

この赤さは秋というより夏の暑さが似合います。

結構神戸市内の水際でもよく見かけます。

(猩猩蜻蛉)

ショウジョウトンボ♂





ショウジョウトンボ♂



ショウジョウトンボ♀

ベニトンボ

温暖化気候は自然のあらゆる生き物に影響を与えています。
ベニトンボは南方系のトンボですが2016年神戸市ではじめて確認され、その後淡路島、姫路市、三木市、加西市などで次々発見されています。
繁殖行動も観察されているので、定着しているものと思われます。

(紅蜻蛉)

ベニトンボ♂





上 ベニトンボ♀

下 ベニトンボ♂

ウスバキトンボ

翅の幅が広く、いかにも長距離の飛行に向いた体形です。全世界の熱帯、亜熱帯で見られ、日本には初夏の頃、南からやってきて、どんどん北に向かって分布を広げ、冬は超せずに死にます。盆過ぎにたくさんのトンボが飛んでる状況はこのトンボです。

昼間に止まっている姿はほとんど見られず優雅に吹く風にまかせて飛んでいます。

(薄翅黄蜻蛉)

ウスバキトンボ♂





END

稲刈後

ナツアカネ



ナツアカネ



マイコアカネ

HATTA YASUHIRO